

高知南中高保護者からのご意見（平成 26 年 5 月 17 日）への回答

番号	質疑及び意見	回答
1	<p>■保護者臨時総会を受けて（5/15開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> 新聞報道で「閉校」と記載されたが、あくまで「検討案」なのできちんとした報道や発表をしてほしい。 	<p>○ 閉校という新聞発表は、県教委の趣旨と異なりますので、申し入れをしています。今後とも報道の自由を尊重しつつ、明らかな事実誤認等がある場合には、報道関係者に対して、適切な報道がなされるよう求めてまいります。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> 新聞で現状「検討案」と書いて欲しい。また訂正して欲しい。多くの県民（南中高の保護者や生徒まで）が「閉校」だとした誤解を持っている。 	
3	<ul style="list-style-type: none"> 今回の再編計画で学校が閉校（廃校）という問題になっている時期に教育長の辞任、および教育委員会の担当部署の大幅な人事異動となっているが、進め方が非常に無責任ではないか。白紙に戻した検討が必要。 	<p>○ 本年 1 月 27 日に公表した再編振興計画案のたたき台は、県立高等学校再編振興検討委員会（平成 23 年 9 月～平成 25 年 2 月）が検討を重ね、取りまとめたいただいた報告書を基に、教育委員会事務局が教育委員のご意見を伺いながら慎重に時間をかけて（平成 25 年 2 月から 11 月の間）、様々な検討を行い、組織としてまとめたものです。その内容が人事異動で変わるものではありません。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> この再編計画はいつの時点で、誰が提言したのか、また誰が今後決めていくのか。責任は誰にあるのか。 	
5	<ul style="list-style-type: none"> 前教育長、事務局からの再編計画案であれば、直後のその様な組織体制の変化でどのように進めるのか。また、このような無責任な対応では無効（白紙）ではないか。 	<p>○ 現在は、あくまで、たたき台をお示しした段階であり、今回の教育委員協議会でいただいたご意見も踏まえて丁寧な議論を重ね、計画を策定してまいります。</p> <p>○ 再編振興計画については県教育委員会の責任で策定してまいります。</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> 各委員の方は、いつ、どの様な観点でこの内容を了承し今後進めていく所存なのか。 	<p>○ 教育委員は、将来の高知県の子どもたちのために、高等学校教育としてより良い教育環境をどのように提供していくのかという観点から、事務局の作成したたたき台をもとに、教育委員協議会で協議を重ね、その内容について了承いたしました。</p> <p>○ 今後、統合対象の学校関係者などからいただいたご意見等を踏まえ、判断していくことになります。</p>
7	<ul style="list-style-type: none"> 報道発表移行、保護者説明会（2回）でもまともな回答ができていないのになぜ会を開いたのか。単純な質問にも回答できないのはおかしい。 	<p>○ 南中高の保護者の方々などのご意見や高知市議会の意見書の可決などを受けて、丁寧にご意見をお聞きする場を設けているところです。</p>
8	<ul style="list-style-type: none"> パブリックコメントを開くと言っていたが開いていないのは何故か。 	<p>○ パブリックコメントは、たたき台を基に、皆様から頂いたご意見も踏まえ、再編振興計画の案を作成したうで行いますため、当初の予定よりは遅くなっています。</p>
9	<ul style="list-style-type: none"> 子ども達の思いや保護者の思いが、現在まで届いていないがどの様なものか。 	<p>○ 関係者の皆様の思いを受けとめながら協議を進めていくため、今回のご意見をお聞きする場を設けておりますし、より丁寧に再編振興計画に関する考え方をお示しするように努めているところです。</p>
10	<ul style="list-style-type: none"> 学校の液状化については、説明会の時点（1/30）で県の作成した資料を各課より頂き、その内容からも特に重大なる心配はないとのご意見も伺っているがいかがなものか。 	<p>○ 1 月 27 日に公表した再編振興計画案のたたき台は、液状化について、第 2 次高知県地震対策基礎調査（平成 16 年 3 月）に基づいた液状化危険度図を根拠に資料を作成しましたが、それによれば、極めて危険性の高い地域となっていました。</p>
11	<ul style="list-style-type: none"> また、南中高の再編計画が発表された時、説明会で県の資料（各課）を検討した上で今回の検討案がだされたのか伺ったが、回答ではそのような資料の存在も知らなかったがいかがなものか。 	<p>今年の 1 月 30 日に更新された県の防災マップでは液状化が想定される層はないことになっておりますが、ピンポイントで計測した結果であり、高知南中高校の敷地全体で、液状化が起らないことが保証されるものではありません。一方、高知南中高校は、長期浸水に加え、高知港に近接し、周辺に工場もあることから、木材や船舶などの漂流物被害や、津波火災などのリスクが他の高校</p>
12	<ul style="list-style-type: none"> また、そのような資料（根拠）もなく作成した検討案は本来無効ではないか。 	
13	<ul style="list-style-type: none"> 委員の方々も資料（根拠）また同じ県（内部）での危機対策を周知・把握しないままです承した 	

高知南中高保護者からのご意見（平成 26 年 5 月 17 日）への回答

	のはどの様な経緯があるのか。	よりも大きなことが想定されます。
14	<ul style="list-style-type: none"> これまでの意見の中でも対策の一つとして、高台への移転計画があるが、本校ではその対応が難しいのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒数が減少する中で、高知市内及びその周辺部で全く新たに校舎を建設することは、現実的でないと考えています。
15	<ul style="list-style-type: none"> そこで、南海トラフ地震への対策として、津波タワーを（北舎の北）検討し周辺民間会社との非難協定や連携で対応することも必要であり、そのような対策で一定の回避（対策）ができるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高知南中高校は、津波避難場所として指定されているように、一時的に生徒の皆様の命を守ることに関していえば、十分に機能すると考えています。 ○ しかし、高知南中高校周辺は、津波によって長期浸水が予想されている地域であるとともに、高知港に近接し、周辺に工場もあることから、木材や船舶などの漂流物被害や、津波火災などのリスクが他の高校よりも高いことが想定されますので、長期浸水とこうした被害が重なることになれば、早期の学校再開は困難になります。 また、中学生を含めた約 1,000 人の生徒にとって、長期浸水やその他のリスクにより、一次避難をしている期間が長引けば、精神的、体力的な負担も、大きいと考えられます。 皆様のお大切なお子様の命をお預かりしている教育委員会としては、将来の子どもたちが安心安全に学ぶことができる環境を提供することを一番に考えて、最大限のリスクを想定し、必要な対策を講じることが必要だと考えております。
16	<ul style="list-style-type: none"> 1 学年 6 学級を維持する意義について、基本的な考えを変える必要があるのではないか。全国的に見てとする見解や都市圏の流れではなく、全国的にみても特異な人口減や地域特性がみられる高知県として、高知オリジナルの基本構想が必要ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 現在、お示ししている県立高等学校再編振興計画のたたき台では、人口減少が続く本県の事情を踏まえ、本県独自の考え方として、次の 2 つに分けて考えております。 一点目は、「中山間地域について」 過疎化が著しく近隣に高等学校がない地域では、通学等にかかる負担を考慮して、地域で学ぶ環境を保障することを優先して、1 学年 1 学級の規模でも学校を維持することとしています。 二点目は、「高知市及びその周辺部地域の中央部について」 一定の生徒数の確保が見込まれることから、将来においても 6 学級規模の学校を維持することで、より良い教育環境を維持していくために、統合を行うことが必要と考えております。 また、こうした学校を維持することは、中山間地域の方々にとっても、より規模の大きな学校に進学する選択肢を残すことにつながります。 ○ 現在、高知市内には、1 学年 7 学級規模の学校が 4 校、6 学級規模の学校が 2 校ありますが、このまま、何もせずにはいますと、生徒数が減ることで、20 年後には全てが 5 学級以下となり、1 学年 4 学級や 3 学級の規模の学校も増えてきます。それにより習熟度別授業や部活動の選択の幅が限定されることとなります。 ○ 例えば、1 学年 6 学級規模の学校であれば、その学校規模に応じた教員が配置され、習熟度別授業は 1 学年 7 科目程度を実施することができますし、地理歴史科・公民科や理科などの専門科目をそれぞれの専門教員が指導できますし、その結果、生徒の進路や課題に応じたき
17	<ul style="list-style-type: none"> 全国規模（平均）を高知県に摘要する意義はどの様なものがあるのか。 	

高知南中高保護者からのご意見（平成 26 年 5 月 17 日）への回答

		<p>め細やかな学習支援が可能となります。また、生徒数が多い学校であれば、団体競技をはじめ多くの部活動を行うことが可能となり、切磋琢磨しながら互いに成長できるようになりますし、部活動の数が増えることで、生徒の希望や適性に応じた選択の幅が広がります。</p> <p>ところが、1 学年 4 学級の規模の学校になりますと、教員数が少なくなることから、習熟度別授業は 1 学年 3 科目程度しか実施できませんし、地理歴史科・公民科や理科などの専門科目にそれぞれの専門教員を配置することができなくなり、きめ細かな学習支援が困難になります。また、部活動についても多人数の団体競技は、例えば、野球かサッカーかどちらかしかない状況となるなどすることで、生徒が望む選択肢の幅を狭めていく状況になります。さらに、3 学級規模の学校ともなれば、習熟度別授業は 1 学年 2 科目以下の状況となり、生徒が、充実した教育環境で学ぶことが難しくなってしまう。</p> <p>○ 今後も生徒数の減少が続く中で、取組が遅れば遅れるほど、こうした状況が顕著になってまいりますので、将来の子供たちの教育環境を考えると、対応を先送りにすべきではないと考えています。</p>
18	<ul style="list-style-type: none"> 生徒数の減少に対して、教員の数も減らして対応する必要があるのではないかと。 	<p>○ 生徒数が減少すれば、原則として、国の定めた「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」に基づく基準に応じて、教員数も削減することとなります。</p>
19	<ul style="list-style-type: none"> 教員数を削減することは可能か。高知県の教員採用が簡単であり人数が多くなっていることも言われているが、南中高がなくなればさらに過剰人員になってしまうのでは、その対応はどの様を考えるのか。 	
20	<ul style="list-style-type: none"> 西への説明は開いているのか。 	<p>○ 3 月 28 日に校友会役員、PTA 役員、4 月 28 日に PTA 役員にたたき台について説明し、5 月 31 日に教育委員協議会を開催し、保護者、校友会、国際交流推進会の代表者の方々に更に詳しい説明を行っています。</p>
21	<ul style="list-style-type: none"> 西高は立地条件や現状の設備をみても不便ではないか。 	<p>○ 現在も、高知西高校には、JR などの公共交通機関を活用して広域から通学しています。また、高知市南部や中心部等からも多くの生徒が自転車で通学しています。</p>
22	<ul style="list-style-type: none"> アクセス面で見ても西は不便、バスが無い。郡部からの子ども達はどの様に通学するのか。南中高は非常に交通の便がよいがどの様に思うのか。 	
23	<ul style="list-style-type: none"> 西としての保護者や地域の見解はどうなっているのか。 	<p>○ 5 月 31 日の教育委員協議会を通じて、国際バカロレアの導入をぜひ進めていただきたいというご意見や、高知南中高関係者の理解を得られるよう努力してほしいなど幅広いご意見をお伺いしています。</p>
24	<ul style="list-style-type: none"> 3/8の教育委員協議会資料から、南海トラフ地震への対応について船舶や木材の漂流物被害、津波火災、周辺工場や石油基地の津波被害について記述があるが、これまでの説明、発表時の説明にも無かったが、いつ、どの様なシュミレーションをおこなった資料から出したものか。 	<p>○ 県立の高等学校における南海トラフ地震対策については、生徒の皆さんの命を守ることを最優先に考え、高知県(危機管理部)の作成した津波浸水予測図や液状化可能性予測図、高知県地域防災計画に基づいて対策を進めております。</p> <p>○ 高知南中高は、津波避難場所として指定されているように、一時的に生徒の皆様の命を守るということに関していえば、十分に機能すると考えています。</p>
27	<ul style="list-style-type: none"> 周辺工場や石油基地、木材団地の防災対策は県ですすめているはず。 	

高知南中高保護者からのご意見（平成 26 年 5 月 17 日）への回答

28	<ul style="list-style-type: none"> 地域では、その様なことを県の関係部署からも聞いた事がない。また、その内容については県として十分対策を進めていると聞かすが、なぜ南中高の問題としてあげる必要があるのか。 	<p>○ しかし、高知南中高校周辺は、津波によって長期浸水が予想されている地域であるとともに、高知港に近接し、周辺に工場もあることから、木材や船舶などの漂流物被害や、津波火災などのリスクが他の高校よりも高いことが想定されますので、長期浸水とこうした被害が重なることになれば、早期の学校再開は困難になります。</p> <p>また、中学生を含めた約 1,000 人の生徒にとって、長期浸水やその他のリスクにより、一次避難をしている期間が長引けば、精神的、体力的な負担も、大きいと考えられます。</p> <p>皆様の大切なお子様の命をお預かりしている教育委員会としては、将来の子どもたちが安心安全に学ぶことができる環境を提供することを一番考えて、最大限のリスクを想定し、必要な対策を講じることが必要だと考えております。</p>
25	<ul style="list-style-type: none"> この時点で上記のような新たな資料を出した経緯はどこにあるのか。本来であれば 1 月時点で資料があるのでは、発表してから計画案に寄せた内容を資料にするのはいかがなものか。無効ではないか。（発表時はその様な資料の存在や把握もしていないとした。） 	<p>○ 1 月 27 日にお示したたたき台では、十分に説明できていない点がございましたので、皆様にご理解いただけるように、基本的な考え方を基に、より分かりやすい資料を作成し、改めてご説明したものです。</p>
26	<ul style="list-style-type: none"> 同じ県のどの課の対策資料をもとに検討したのか。 	<p>○ 高知県（危機管理部）の作成した津波浸水予測図や液状化可能性予測図、高知県地域防災計画等の資料を基に、南海地震対策課や危機管理・防災課と協議をしながら対策を進めております。</p>
29	<ul style="list-style-type: none"> 今回の場（5/17）がパブリックコメントの場なのか。 	<p>○ 今は、たたき台に対するご意見をお聞きしているところです。</p> <p>○ パブリックコメントは、たたき台を基に、皆様から頂いたご意見も踏まえ、再編振興計画の案を作成したうえで行います。</p>
30	<ul style="list-style-type: none"> 再編計画が報道発表されたのは受験願書締め切りの前日であった。受験に当たり非常に悩み、困惑したが受験し入学することができた。しかし、現在今後の学校生活を送る上で部活なども考えると後輩が入ってこないこの様案は未だ戸惑っている。私たちがとても損に感じる。（中 1 より） 	<p>○ たたき台をお示した時期が、結果として受験シーズンと重なってしまったことで、生徒や保護者の皆様に不安な思いをさせてしまい、大変申し訳なく、心苦しく思っております。今後、生徒の皆さんに安心して学校生活を送っていただけるよう、例えば、養護教諭の複数配置やスクールカウンセラーの常駐など心のケア対策に学校と教育委員会が一丸となって、取り組んでまいります。</p>
31	<ul style="list-style-type: none"> ■保護者説明会（資料等）を受けて（生徒数の減少への対応について） 本校、中学校への入学希望者数は非常に多く、昨年も 2 倍あり本年もこの様な報道がありながらも 2 倍を超える希望があったことは魅力のある学校ではないか。また、中学校として中高一貫（6 年間）として非常にニーズが高いと言える。 	<p>○ 高知南中高校は、キャリア教育や国際理解教育や中高一貫教育等に取り組まれており、生徒や保護者から期待されています。</p> <p>しかしながら、生徒数の大幅な減少や、震災への対応などが必要となっており、お示ししているたたき台は、統合によって、これらの課題に対応するとともに、高知南中高校の魅力と、中高一貫校の伝統を継承し、さらに発展させていくという考え方をお示したものです。</p>
32	<ul style="list-style-type: none"> 生徒数の減少は、県全体の問題でもあり全高校での定員数・学級数の見直しが必要と思われ、郡部の高校においては学級数（2 学級または 1 学級）を維持するのであれば、定員数の設定を現行 40 人⇒30 人または 35 人への変更（40 	<p>○ より良い教育環境として、習熟度別授業の科目数や部活動数を維持するために重要なのは、学級数ではなく、生徒数です。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">40 人学級の 1 学年 6 学級：40 人×6 学級×3 学年 ＝720 人の規模の学校</p>

高知南中高保護者からのご意見（平成 26 年 5 月 17 日）への回答

	<p>×2=80、から30×2=60) により対応可能ではないのか。</p>	<p>30 人学級の 1 学年 6 学級：30 人×6 学級×3 学年 =540 人の規模の学校</p>
33	<p>・ 1 学級の定員数については、40人を規定するものではなく、都道府県の実状に合わせた対応が可能であるとの規定がある。また、諸外国（教育先進国）をみても30人規模または地域特性によるとして小規模学級の対応がなされているが、なぜ実践できないのか。 できないなら、具体的にどのような点でできないかを明確にしてほしい。</p>	<p>○ 国の基準では、教員は、生徒数に応じて配置をされますので、30 人学級の 6 学級では、40 人学級のほぼ 4 学級相当の配置数にとどまってしまう。 このため、習熟度別授業の実施など、様々な個性を持つ生徒に応じたきめ細かな対応や放課後の質問への対応などが行き届きにくくなります。</p> <p>○ また、生徒数が少なくなることから、部活動の選択肢も制限されますし、学年単位や全校で行う特別活動の規模も小さくなり、学校の活力が弱くなっていきます。</p>
34	<p>・ また、高知市および周辺高校では相対的な生徒数の減が予測されるのであれば、 ① 40人規模で検討すれば、学級数を 3～6 学級（最大240人）で対応 ② 30人規模で検討すれば、学級数を 4～8 学級（最大240人）で対応が可能 ③ 上記を複合的に検討すれば市内および市周辺高校における生徒数の減少への対応が可能となる 以上のような検討ができないのか。どこに問題があるのか。</p>	<p>○ なお、教員に対する国の負担は 40 人学級を算定の基礎としているため、30 人学級を実施するためには、中央部においては、概算で 9 億円程度、高知県全域では概算で 17 億円の県の負担が、毎年追加が必要となります。（35 人学級では中央部で概算 6 億円程度、県全域では約 10 億円。）</p> <p>○ そのうえ、多額の費用を投入したとしても、生徒数が多いことで得られる、生徒が互いに切磋琢磨できる教育環境は提供できないことから、大きな財政負担に見合う教育効果は期待できないと考えます。</p>
35	<p>・ 学級数の検討案については、「再編振興に関する地域懇談会」の中で一律、40人規模の 6～8 学級対応への疑問が出ている。また、作業部会や委員会の中でも社会的情勢の変動における規模に対する根拠が明確でない指摘しているがなぜであるか。</p>	<p>○ ご指摘の疑問については、「4～8 学級の適正規模について、中山間地域の高校は 1 学年 4 学級より小さい規模でも残してほしい」という観点からのご意見であったと認識しています。基本的な考え方（案）では過疎化が著しく、近隣に他の高校がない地域では特例として 1 学年 1 学級で学校を維持することとしています。</p>
36	<p>・ 「再編振興に係るアンケート調査」では、高校の適正規模（学級数）について、全日制の生徒・保護者とも4割が 4～5 学級、3割が 2～3 学級と小規模を希望。定時制では生徒・保護者とも 3割以上で 2～3 学級または 1 学級への希望。また、中学生では生徒保護者とも 4割近くが 2～3 学級、3割で 4～5 学級の希望。調査結果を基にして、高知県における当事者の意見が十分に反映されていないと思われます。</p>	<p>○ アンケートの趣旨は、中山間地域が大部分を占める本県の状況を踏まえた高等学校の適正規模に関する生徒や保護者の意見を把握することでした。高知市以外の中山間地域の中学生・保護者（約 82%）や高校生・保護者（約 86%）を中心にアンケートを実施したことから、そうした結果になったものです。</p>
37	<p>・ 学級数や定員数の規模における体育活動やクラブ活動への影響について、明確なデータによる指摘または検討が出されておらず根拠がみられない。 参考資料は、学級数の現状を示したもので規模による推移や変動をデータ化したものではないものを載せているがどうしてか。</p>	<p>○ 5 月 17 日の教育委員協議会の資料でご説明しましたように、学校の規模によって、習熟度別授業や部活動等は大きな違いが出てきています。</p>
38	<p>・ また、「再編振興に係るアンケート調査」においても、全日制生徒・定時制生徒・保護者とも高校で望むことについて「部活動の充実」は非常に低い。全日制生徒で 2割、定時制・保護者では 1割弱。クラブ離れやクラブ以上に「授業の充実」や「進学」への重いが非常に高い。体育活動やクラブ活動については、量的な対応より現状を把握した質の向上や対応で評価できるのでないか</p>	<p>○ 本来、高等学校は学ぶ場所であり、社会人となる前段階ですから、学習環境や進路への期待が高いことは事実です。 また、生徒や保護者にとって高校に部活動があることは、当たり前と受け止められている面もあるかもしれませんが、高校生にとって、部活動は、お互いが切磋琢磨し、人間性や社会性を養ううえで、大変重要なものです。</p>

高知南中高保護者からのご意見（平成 26 年 5 月 17 日）への回答

39	<ul style="list-style-type: none"> 学校の統合・廃校については、委員会のまとめの中でも定員数の削減や学級数の減、生徒確保の努力や魅力ある学校づくりの改革を十分取り組み、実施してもなおやむを得ない場合に限り、その方向性も検討するとの見解であり。その様な状況に至っても即座に対応するものではないとしているが如何なものか。（委員意見を無視したもの） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ご指摘の内容は、生徒数が大幅に減少している中山間地域での高校の統廃合についての考え方を述べたものであり、高知市内校の統合についての考え方ではありません。 ○ 現在、お示ししている県立高等学校再編振興計画のたたき台では、人口減少が続く本県の事情を踏まえ、本県独自の考え方として、次の2つに分けて考えております。
40	<ul style="list-style-type: none"> 市内および市外、県内の学校において上記の努力または取り組みは、未だ行っていないのになぜ、今回の方向性を実施しようとするのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一点目は、「中山間地域について」
41	<ul style="list-style-type: none"> 南中高においても県からの上記のような努力、魅力ある学校づくりや生徒の確保に向けた提案はなされておらず、実施した上でかつ成果に至っていない結果からの今回の再編振興計画案ではないと思われるがいかがか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 過疎化が著しく近隣に高等学校がない地域では、通学等にかかる負担を考慮して、地域で学ぶ環境を保障することを優先して、1 学年 1 学級の規模でも学校を維持することとしています。 ○ 二点目は、「高知市及びその周辺部地域の中央部について」 ○ 一定の生徒数の確保が見込まれることから、将来においても 6 学級規模の学校を維持することで、より良い教育環境を維持していくために、統合を行うことが必要と考えております。 ○ その中で、高知南中高校と高知西高校の統合の案は、生徒数の減少への対応、グローバル人材の育成のような教育課題での対応、震災に強い教育環境の整備という観点から総合的に判断してお示ししたものです。
42	<p>(グローバル人材の育成について)</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在進めている土佐の教育改革のなかで、南中高における国際科の位置づけの充実化を再度進めることでグローバル教育の育成は達成可能だと思うがいかなものか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 社会や経済の急速なグローバル化に伴って、幅広い教養や課題解決能力などを備え、国際社会で広く活躍できる人材の育成が、これからの地域振興や産業振興を実現していく上でも大きな課題となってきました。
43	<ul style="list-style-type: none"> 国際バカロレアとグローバル教育は、同等レベルで検討するのは難しいのではないか。国際バカロレアは非常にレベルが高く、高卒後すぐに外国大学進学資格対応を目指すもの、英語学力レベル（TOEFL 70 点以上）を目標とし最終的には海外大学進学可能なレベル（TOEFL 80 点以上）を目指すもの。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ こうしたグローバル人材には、高度な語学運用能力とともに、論理的思考力や課題解決能力、コミュニケーション能力などが備わっていることが必要です。 ○ これらの能力を備えた人材を育成していくためには、国際理解教育を教育活動の柱の一つに位置付け、中高一貫教育に取り組んでこられた高知南中高校と、英語科を中心に語学教育に力を注いでこられた高知西高校を統合することで、これまでの両校の取組を継承・発展させていくことが、ベストな選択であると判断をいたしました。
44	<ul style="list-style-type: none"> 国際バカロレアの基本構想の中にもある ①「プレディプロマプログラム（1年）」→「グローバルプログラム（2・3年）」 ②「プレディプロマプログラム（1年）」→「ディプロマプログラム（2・3年）」 の方向性を明確にする必要があるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ なぜならば、高度な語学運用能力やコミュニケーション能力を育成していくためには、これまで、高知西高校が取り組んできた国際的なコミュニケーション能力の育成を中心とする英語教育を活かしていくことが重要になります。
45	<ul style="list-style-type: none"> 西高において今後検討するのであれば①「プレディプロマプログラム（1年）」→「グローバルプログラム（2・3年）」であり、南中高においては既存の国際科が②「プレディプロマプログラム（1年）」→「ディプロマプログラム（2・3年）」に相当しており現状を充実することで対応が可能となると思われるがいかなものか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ また、国際社会で活躍できる幅広い教養や課題解決能力等を育成していくために、高知南中高校が取り組んできたアメリカやアジアの国々との交流等による国際理解教育の成果を活かすことができます。 ○ また、両校で取り組んできた幅広い教育を取り入れることで、相乗効果を生み出し、大きな教育効果が期待できるものと考えています。
46	<ul style="list-style-type: none"> また、①の「プレディプロマプログラム（1年）」→「グローバルプログラム（2・3年）」へ目指すための小学生や中学生のための選択肢やきっか 	<ul style="list-style-type: none"> ○ さらに、国際バカロレアの導入も見据えた、先導的なグローバル教育を実施していくためには、中高 6 年間の

高知南中高保護者からのご意見（平成 26 年 5 月 17 日）への回答

	<p>け、取り組みはじめとした段階的な位置づけが必要と思われる。急なハイレベルへの対応は、生徒の負担が非常に高いのではないかと。</p>	<p>一貫した教育プログラムを行うことで、より効果的に学ぶことができますので、これまで生徒や保護者の皆様などに支えられながら培ってきた高知南中高校の中高一貫教育のノウハウを、是非、引き継がせていただき、さらに発展させていくことが必要だと考えています。</p> <p>両校の生徒や関係者の皆様方に、こうした統合案をお示しすることは、大変心苦しく思っていますが、高知南中高校と高知西高校を統合することで、本県のグローバル教育をリードする充実した教育環境を整備していきたいと考えていますので、なにとぞ、ご理解をお願いいたします。</p>
47	<p>（南海トラフ地震への備えについて）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 建物の建設時に地震対策として、特に地盤改良や杭工法による対策が施されていると思われるがいかがなものか。 	<p>【24 と同じ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 県立の高等学校における南海トラフ地震対策については、生徒の皆さんの命を守ることを最優先に考え、高知県(危機管理部)の作成した津波浸水予測図や液状化可能性予測図、高知県地域防災計画に基づいて対策を進めております。 ○ 高知南中高校は、津波避難場所として指定されているように、一時的に生徒の皆様の命を守るということに関していえば、十分に機能すると考えています。 ○ しかし、高知南中高校周辺は、津波によって長期浸水が予想されている地域であるとともに、高知港に近接し、周辺に工場もあることから、木材や船舶などの漂流物被害や、津波火災などのリスクが他の高校よりも高いことが想定されますので、長期浸水とこうした被害が重なることになれば、早期の学校再開は困難になります。 <p>また、中学生を含めた約 1,000 人の生徒にとって、長期浸水やその他のリスクにより、一次避難をしている期間が長引けば、精神的、体力的な負担も、大きいと考えられます。</p> <p>皆様の大切なお子様の命をお預かりしている教育委員会としては、将来の子どもたちが安心安全に学ぶことができる環境を提供することを一番に考えて、最大限のリスクを想定し、必要な対策を講じることが必要だと考えております。</p>
48	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高知市および高知県としての防災観からも直接的な津波（高波）による被害想定ではなく、浸水による被害想定を第一にしており、先ずは高台への避難が重要視されるのではないかと。 	
49	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在の防災対応は鏡側対岸（東側）や国分川流域の防波堤の改善整備が最優先で行われており、公的な防災観点からも南中高周辺における防災対応は二次対応ではないのか。 	
50	<ul style="list-style-type: none"> ・ 浸水対応については、ワンパークこうちからの避難路確保や校舎屋上への避難階段の設置で対応している。また、地域の避難場所としても対応しているので必要であり、震災対策が施されていると思われるがいかがか。 	
51	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の防災（避難）対応については現在、避難路や避難建物の指定を市と連携し策定し整備している。避難建物には、救命用ゴムボートと簡易トイレを整備配置しており最低限の対応はできている。 	
52	<ul style="list-style-type: none"> ・ そのひとつに、地域防災として潮江地区における小中学校区（潮江東校区、潮江校区、潮江南校区、潮江中校区）での自主防災協議会・連合会による防災への取り組みがなされ、各小中学校・高校の生徒および地域住民を含めた避難訓練や防災学習会を実施している。 	
53	<ul style="list-style-type: none"> ・ また今後南中高においても、地域防災と連携して防災教育を進め、先ずは「自分の命は、自分で守る」（東北震災の教訓より）を周知していけば対応できる。 	
54	<ul style="list-style-type: none"> ・ 潮江地区の防災計画でも避難ビルの位置や収容人数も把握しており、今後登下校時の生徒の避難についても学習する場を設けている。日中は、学校で安全に避難し、登下校時は自ら避難、夜間は各自の地域での避難計画などで対応できていると思われるがいかがか。 	
55	<ul style="list-style-type: none"> ・ 南中高だけの南海トラフ地震問題ではない、これを理由に南中高の再編振興計画に直接結びつけ 	

高知南中高保護者からのご意見（平成 26 年 5 月 17 日）への回答

	<p>た結論を出すものではない。先の作業部会および委員会の中でも、今回の再編振興計画に南海トラフ地震を絡めた論議は方向性が違う意見が出ている。別途問題し検討する必要があると記録しているがどの様に思われるか。</p>	<p>の対応、震災に強い教育環境の整備という観点から総合的に判断してお示ししたものです。</p> <p>将来の高等学校教育の充実を図っていくうえで、震災に強い教育環境の整備は重要な視点の一つだと考えています。</p>
56	<p>（南中学校・高等学校について）</p> <ul style="list-style-type: none"> 「再編振興に係るアンケート調査」でも生徒・保護者とも半数近くが通学の利便を挙げており、南中高は高知市の中心部でもあり、公共交通機関の便も非常によい。また、郡部からの生徒に対しても県東西における鉄道機関と市内交通機関または自転車などによる通学の利便性が非常に高い。県民の意向を無視するのでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高知市内の各高校は公共交通の利便性が高く、市内全域や市外など広い範囲から生徒は通学しています。 ○ 高知西高校にも、JRなどの公共交通機関を活用して広域から通学しており、高知市南部や中心部等からも多くの生徒が自転車で通学しています。
57	<ul style="list-style-type: none"> 高知市の南（三里、長浜、横浜、春野など）地区からの生徒の通学における利便性が非常に高い。高校進学における選択肢の一つになっている。また、潮江地区や市街地中心部における中学進学の見込みの一つでもあるがその対応はいかに感がるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高知市内の各高校は公共交通の利便性が高く、市内全域や市外など広い範囲から生徒は通学しています。高知南高校においても同様の状況で、入学者のうち高知市南部の中学校出身の生徒は2割程度となっております。 一方、高知南中学校には、高知市南部から多くの生徒（H26 入学生の約 49%）が入学しており、高知市南部の子どもたちにとっての有力な選択肢の一つとなっているのは事実ですが、県立中学校は、本来、中高一貫教育校として、その教育理念に沿った教育活動を行うため、広域から生徒を受け入れすることを想定した学校であり、中学校における一般的な義務教育は、地域の公立中学校が担うことが基本となります。 今後、中学校へ進学する子供を持つ保護者の皆様の中には、県立中学校が今の場所から移ることで、選択肢が少なくなってしまう、と感じる方もいらっしゃると思いますので、現在、高知南中学校に多く入学している地域の中学校については、高知市とも連携して、安心して、学んでいただけるよう、教育環境を充実してまいります。
58	<ul style="list-style-type: none"> 中高一貫教育の場から、義務教育の中学として、高校無償化においても経済的な理由による進学の見込みの一つにもなっている。その点で教育の平等をどのように考えるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県立中学校は、本来、中高一貫教育校として、その教育理念に沿った教育活動を行うため、広域から生徒を受け入れすることを想定した学校であり、中学校における一般的な義務教育は、地域の公立中学校が担うことが基本となります。教育の平等性は公立中学校で保障していきます。
59	<ul style="list-style-type: none"> バリアフリーの観点から、県立で整備している高校は小津高校と南高校、市立で商業の3校のみ、また中学では南中、市立で潮江中の2校のみ。身体に不自由のある生徒或いは、病気や怪我で途中で身体に不自由を負った生徒の進学（小学からを踏まえて）では南中高の存在感は非常に高く、進学における選択肢の幅を広げている。（特別支援学校以外での選択肢の幅を広げている）その選択肢を無くすのでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県立学校については、これまでもバリアフリー化に取り組んできております。今後も優先度の高いところから必要な施設整備を進めてまいります。
60	<ul style="list-style-type: none"> 未設置の高校へのエレベーター設置については、既存建物の構造や耐震性においてエレベーターの設置は非常に難しく、また設置費用も1基3,000万円近くかかり、複数校舎や体育館などへの複数 	

高知南中高保護者からのご意見（平成 26 年 5 月 17 日）への回答

	<p>設置は難しい。県費の無駄使いに繋がるのではないか。しかし、南中高では既に整備されており万全の体制で学業を保障しているのが優先（専門的）な高校としての位置づけができるのではないか。</p>	
61	<ul style="list-style-type: none"> 学校給食について、南中高には食堂が整備されており、中学給食において全国最低（高知県）、高知市内においては郡部よりさらに最低の整備水準を改善するための準備が出来ている。義務教育における中学部での教育の機会を幅広く提供することが可能であるがどの様に考えるのか。実践（実験）的な対応ができ将来的な高知県の学校の在り方を導き出すことが出来るのではないか。 	<p>○ 高知西高校においても食堂は整備されており、中学校が併設された場合でも利用は可能です。</p>
62	<p>（今回の再編振興計画について）</p> <ul style="list-style-type: none"> 以上の問題点、対応策に至る検討を十分に行っていない再編振興計画（案）は、不適切かつ無効ではないか。委員の方はどのように考えるのか。 	<p>○ 本年 1 月 27 日に公表した再編振興計画案のたたき台は、県立高等学校再編振興検討委員会（平成 23 年 9 月～平成 25 年 2 月）が検討を重ね、取りまとめたいただいた報告書を基に、教育委員会事務局が教育委員のご意見を伺いながら慎重に時間をかけて（平成 25 年 2 月から 11 月の間）、様々な検討を行い作成したものです。</p> <p>根拠となるデータは 5 月 17 日の協議会で改めて説明させていただきました。</p>
63	<ul style="list-style-type: none"> 南中高および西高を対象とした（案）が、いつの時点で誰が（どの部会または立場で）また具体的な指摘内容で提出されたか明確化していない。かつ、根拠となる明確なデータ等の提示も無く不備である。明確にし提示してほしい。 	
64	<ul style="list-style-type: none"> 新聞発表における再編振興計画（案）の表現の仕方について、非常に疑問と戦略的な意図が感じられると共に、生徒の心情に対する配慮が欠落している。どのように対応していくのか具体的に。 	<p>【1と同じ】</p> <p>○ 閉校という新聞発表は、県教委の趣旨と異なりますので、申し入れをしています。今後とも報道の自由を尊重しつつ、明らかな事実誤認等がある場合には、報道関係者に対して、適切な報道がなされるよう求めてまいります。</p>
65	<ul style="list-style-type: none"> また、発表後における生徒たちへのフォローも欠落している。 	<p>○ これまでの生徒への対応としては、</p> <ul style="list-style-type: none"> 校長から生徒に事情説明し、生徒の今の気持ちについてのアンケート調査を実施 スクールカウンセラーを週 1 回に加えて、1 月 30 日～2 月 25 日の期間に緊急的に配置し、生徒たちの心のケアに努めてきました。 <p>また、今後、生徒の皆さんに安心して学校生活を送っていただけるよう、例えば、養護教諭の複数配置やスクールカウンセラーの常駐などの心のケア対策に学校と教育委員会が一丸となって、取り組んでまいります。</p>
66	<ul style="list-style-type: none"> 新聞やTVにおいては、物理的また心理的な記事（記録）媒体として非常に影響力が高いため、間違った報道や偏った表現の仕方では速やかな訂正・修正が必要であり、今回の件に関してその必要性を求める。（今後、注意し中立した報道を求める） 	<p>【1と同じ】</p> <p>○ 閉校という新聞発表は、県教委の趣旨と異なりますので、申し入れをしています。今後とも報道の自由を尊重しつつ、明らかな事実誤認等がある場合には、報道関係者に対して、適切な報道がなされるよう求めてまいります。</p>
67	<ul style="list-style-type: none"> 新聞発表以降の委員会開催やスケジュールは、この様な計画（案）を検討する一般的な進め方を異常しているがどの様なものか見解してほしい。 	<p>○ 将来の高等学校教育のあり方に関わる重要な課題ですので、たたき台の段階から公開の教育委員協議会の場で協議を進めてまいりました。今後とも関係者のご意見をお聞きしながら丁寧に議論を進めてまいりますし、こうしたご意見を踏まえて計画案を作成し、パブリックコメントを実施したうえで計画の策定を行っていきます。</p>

高知南中高保護者からのご意見（平成 26 年 5 月 17 日）への回答

68	<ul style="list-style-type: none"> 有識者、委員会等におけるメンバー選定においても偏った構成が行われ入る。全く違った分野や県外、当事者以外の選定が見られ、計画（案）に関わる有識者・委員の選定が成されていないがどの様なものか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 将来の高等学校教育のあり方は、将来の子どもたちに関わる重要なものであり、地域社会にとっても深い関わりのある問題です。そのため、県立高等学校再編振興委員会では、小中高の学校関係者だけではなく、地方行政や地域政策に精通した有識者等も含め、幅広い視点から検討を行っていただきました。
69	<ul style="list-style-type: none"> 特に生徒・教師・保護者また地域住民への事前説明、新聞発表後の説明会も成されておらず不備である。全体的なスケジュールから見ると前後して不十分な対応で、無理がある。（決定を急ぐための何らかの（公表できない）理由があるのではないか？） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校関係者の皆様への事前の説明等に不十分な点があったことについては申し訳なく思っています。 ○ 学校統合の問題は、学校関係者の皆様はもとより、将来、高校生となる子どもたちをはじめ、広く県民の皆様に関わる重要な問題です。また、大変デリケートな問題でもあるため、一部の方だけに事前にお示しするというのではなく、たたき台の段階から広く県民の皆様にお示しをし、教育委員による議論もオープンにした上で、ご意見をいただきながら協議を進め、計画案を取りまとめていくこととしたものです。
70	<p>■教育委員協議会の会議録および資料より（3/8会議録・資料より）</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料から、公立中学校の卒業生数の推移と中央部における学級数の推移をみると、10年度の卒業生数は300人減、学級数規模では430人減対応でその差は約130人であり、1クラス40人規模で3学級分を振り分けられる。また20年後では、卒業生数750人減、学級数規模910人減でその差約160人で4学級分が表内の学校に振り分けられる。このことから、1学年6学級は概ねクリアしていると思われるがいかがなものか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 20年後の生徒数は、高知市では755人減ですが、旧高知学区では967人の減少が見込まれます。そうした前提で、高知市とその周辺地域の中央部にある学校の入学人数を20年後に913名の減少としていますので、ご指摘のような振り分けは困難です。（10年後についても同様です。）
71	<ul style="list-style-type: none"> また、学級規模の推移では、南高校が入った推移の数であり、存続しても対応できると言える資料ではないか。 	
72	<ul style="list-style-type: none"> また、上記の差による学級数の振り分けは中央部、特に市内の進学校での対応を検討すれば、学力向上、大学進学率にもつながり、維持できるといえる。 	
73	<ul style="list-style-type: none"> その他の高校は、13校中5校（旧園芸高校を含め）は産業系の専門校であり、残り3校（東・北・丸の内）は特色のある専門内容のある高校。残り5校の内1校は市外、4校の内1校は南高校、残り3校（追手前・小津・西）で上記の過大見込みの規模減の対応が可能ではないか。 	
74	<ul style="list-style-type: none"> 教員数の減では、資料に4学級と6学級の差で14人減を記載しているが、5学級と6学級の差では8人の減であり、数字を誇張している。8人減での対応を検討できないのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一つの例示として、現在1学年6学級規模である学校が20年後には4学級規模になることが推計されていますので、その比較をお示したものです。
75	<ul style="list-style-type: none"> 4学級での対応ばかり記載されているが、5学級での対応検討は無いのか。また、その差による具体的な影響の事例やデータが見られないのはいかがなものか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 5学級についても、5月17日にお示した資料に記載しておりますように、6学級規模の学校と比較しますと、習熟度別授業や部活動等の面で違いが出てまいります。
76	<ul style="list-style-type: none"> 適正規模について4～8学級とし、中央部は6～8学級としているが明確な根拠および実証データの提示がほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 5月17日の教育委員協議会で説明させていただきましたように、1学年6学級以上の規模の学校では、習熟度別授業の実施や、部活動をはじめとする切磋琢磨する

高知南中高保護者からのご意見（平成 26 年 5 月 17 日）への回答

77	<ul style="list-style-type: none"> ・ なお、教員定数には差が生じるデータがあるが、生徒および将来的な学習への影響の実証がほしい。 	<p>教育環境の整備など、より活気あふれる学校づくりが可能となってくると考えています。</p>
78	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小規模の学校ではいくつかの課題があるといっているが、具体的にどの様な課題があるのか。また、その課題は解決できない課題であるのか。 	<p>○ 例えば、1 学年 6 学級規模の学校であれば、その学校規模に応じた教員が配置され、習熟度別授業は 1 学年 7 科目程度を実施することができますし、地理歴史科・公民科や理科などの専門科目をそれぞれの専門教員が指導できますし、その結果、生徒の進路や課題に応じたきめ細やかな学習支援が可能となります。また、生徒数が多い学校であれば、団体競技をはじめ多くの部活動を行うことが可能となり、切磋琢磨しながら互いに成長できるようになりますし、部活動の数が増えることで、生徒の希望や適性に応じた選択の幅が広がります。</p> <p>ところが、1 学年 4 学級の規模の学校になりますと、教員数が少なくなることから、習熟度別授業は 1 学年 3 科目程度しか実施できませんし、地理歴史科・公民科や理科などの専門科目にそれぞれの専門教員を配置することができなくなり、きめ細かな学習支援が困難になります。また、部活動についても多人数の団体競技は、例えば、野球かサッカーかどちらかしかない状況となるなどすることで、生徒が望む選択肢の幅を狭めていく状況になります。さらに、3 学級規模の学校ともなれば、習熟度別授業は 1 学年 2 科目以下の状況となり、生徒が、充実した教育環境で学ぶことが難しくなってしまう。</p>
79	<ul style="list-style-type: none"> ・ 奇数クラスがやりにくいとあるが、具体的にどのような点で難しいのか。 	<p>○ 体育や芸術では、2 クラスを 3 講座に分けて実施することが多いため、偶数クラス編成が、より教育課程を運用しやすいということからです。</p>
80	<ul style="list-style-type: none"> ・ クラス人数を 40 人⇒35 人または 30 人になぜ検討できないのか。 	<p>【32 と同じ】</p>
81	<ul style="list-style-type: none"> ・ 例：50 人⇒45 人また、45 人⇒40 人になった時に同様な意見がでたのか。 	<p>○ より良い教育環境として、習熟度別授業の科目数や部活動数を維持できるのは、学級数ではなく、生徒数によるものです。</p>
82	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同様な意見が出た場合、結果として減数して経過した時どのような問題があったのか。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>40 人学級の 1 学年 6 学級：40 人×6 学級×3 学年 ＝720 人の規模の学校</p> <p>30 人学級の 1 学年 6 学級：30 人×6 学級×3 学年 ＝540 人の規模の学校</p> </div>
83	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問題があったのであれば、なぜ今まで元に戻してないのか。 	<p>○ 国の基準では、教員は、生徒数に応じて配置をされますので、30 人学級の 6 学級では、40 人学級のほぼ 4 学級相当の配置数にとどまってしまう。</p>
84	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問題が無かったのなら 35 人または 30 人への対応が可能ではないか。 	<p>このため、習熟度別授業の実施など、様々な個性を持つ生徒に応じたきめ細かな対応や放課後の質問への対応などが行き届きにくくなります。</p>
85	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対応できるノウハウがあり活用すればいいのではないか。 	<p>○ また、生徒数が少なくなることから、部活動の選択肢も制限されますし、学年単位や全校で行う特別活動の規模も小さくなり、学校の活力が弱くなっていきます。</p> <p>○ なお、教員に対する国の負担は 40 人学級を算定の基礎としているため、30 人学級を実施するためには、中央部においては、概算で 9 億円程度、高知県全域では概算で 17 億円の県の負担が、毎年追加が必要となります。（35 人学級では中央部で概算 6 億円程度、県全域では約 10 億円。）</p> <p>○ そのうえ、多額の費用を投入したとしても、生徒数が</p>

高知南中高保護者からのご意見（平成 26 年 5 月 17 日）への回答

		多いことで得られる、生徒が互いに切磋琢磨できる教育環境は提供できないことから、大きな財政負担に見合う教育効果は期待できないと考えます。
86	・ 南中高を残した時、今後10年間で中山間の学校がなくなると言った委員がいたが何をデータにしているのか。	○ 高知市内の高校の入学定員を現状のまま維持すれば、中山間地域の高校への入学者数がさらに減少し、学校の維持が困難になる懸念がある、という趣旨の発言です。
87	・ 中央部については全国並みの教育環境を残すことが義務と言っているが高知の地域特性（または地域性）を考慮した教育制度・体制を整備するのが高知県教育委員会の責務ではないのか。	○ 現在、お示ししている県立高等学校再編振興計画のたたき台では、人口減少が続く本県の事情を踏まえ、本県独自の考え方として、次の2つに分けて考えております。 一点目は、「中山間地域について」 過疎化が著しく近隣に高等学校がない地域では、通学等にかかる負担を考慮して、地域で学ぶ環境を保障することを優先して、1学年1学級の規模でも学校を維持することとしています。 二点目は、「高知市及びその周辺部地域の中央部について」 一定の生徒数の確保が見込まれることから、将来においても6学級規模の学校を維持することで、より良い教育環境を維持していくために、統合を行うことが必要と考えております。 また、こうした学校を維持することは、中山間地域の方々にとっても、より規模の大きな学校に進学する選択肢を残すことにつながります。 ○ このような教育環境を整備することが教育委員会の責務であると考えています。
88	・ より大きい規模の学校を残す事が運営コストが下がり、教育環境がよくなると言っているが、どの程度運営コストが下がるのか。また教育環境は具体的にどのような点でよくなるのか明言して欲しい。	○ 学校の統合によって、施設管理費等の経費の削減は見込めますが、今回の再編振興計画は学校の運営コストを低減するために実施するものではありません。 ○ 5月17日の教育委員協議会で説明させていただきましたように、1学年6学級以上の規模の学校では、習熟度別授業の実施や、部活動をはじめとする切磋琢磨する教育環境の整備など、より活気あふれる学校づくりが可能となってくると考えています。
89	・ 参考資料1の中学卒業生数の推移で公立・市立の推移を資料として提示しているが意味の無い資料ではないか。何を意味して、裏にある資料か。	○ これまでの児童生徒数から算出した中学校の卒業生数の推計です。
90	・ 一般的に私立における推移を想定すると経営維持のためであれば横ばいの資料を出すのが常識であり。思惑ではないのか。それと、公立の人口統計から想定されるものを対比して資料にしているのか。	○ 私立中学校も公立中学校も、ともに過去3年間の実績を基に算出しています。私立高校の生徒数が増加しているのは、過去3年間で私立中学校の入学者が増加していることによるものです。 なお、仮に私立学校が現状のままであれば、より厳しい状況になります。
91	・ 高知県は普通科の割合が低く、大学進学率も低いので普通科の割合を増やすと言っているのであれば、南中高は必要ではないか。	○ 全国と比べて普通科の定員の割合が低い現状ではありますが、普通科の割合を増やすのではなく、普通科、産業系専門学科について、それぞれのニーズを踏まえて適切に定員管理してまいります。
92	・ 全国大学もいろいろあり、高知県全体が東大・京大を目指すような普通高校が必要なものか。学校自体で難関大学・私立大学・特色ある大学などの選択肢を検討してはどうか。1学校内でのコー	○ 県立高校の進路指導として、東大、京大などの難関大学だけを目指すのではなく、それぞれの学校において、生徒の特性や進路希望を踏まえ、その実現を支援していくことが重要であると考えています。

高知南中高保護者からのご意見（平成 26 年 5 月 17 日）への回答

	<p>ス別けはクラス編成が難しく、少人数になれば生徒の競争心も無くなる。また、教員配置もその分、各校に専門の人数が必要になり難しい。現状、難関等学習できるレベルの教員配置が可能であるのか。</p>	<p>そのために、全ての教員がそういった指導に当たることができるように、教員研修等に努めています。</p>
93	<p>・ 高知県の人口減少をここでは2035年で語り、本再編計画で資料のひとつになっているが、政府データによれば子供の人口はこの30年間減少しているデータがある。南中高は、高校でも創立27年、中学12年であり計画および建設時には現状が想定されていたはず。そこで、どのような検討のもとで行ってきたのか。</p>	<p>○ 高知南高校が設置された当時は、生徒数の急増期であり、高等学校（入学定員）が不足している状況にありました。</p> <p>○ 一方で南中学校の開設時には生徒数は減少傾向にありましたが、県中央部に、本県における中等教育の一層の多様化を図り、生徒一人ひとりの個性をより重視した教育を行う観点から、併設型中高一貫教育を実現することが必要であるとして設置したものです。</p> <p>○ 中部での併設型中高一貫教育は、統合した高校で継続します。</p>
94	<p>・ このままいくと人口ゼロと発言しているが、その根拠は。論理的・生態学的にゼロにはならない。</p>	<p>○ 説明の流れの中で、推計上ではいつかはゼロに近づいていくという趣旨の発言です。</p>
95	<p>・ 学校に行く選択肢を子ども達に与える事が教育行政として必要と発言しているが、南中高も選択肢の一つではないのか。その選択肢を無くすのか。発言内容が違っている。</p>	<p>○ 学校のあり方等については、生徒数の減少など、社会の情勢の変化等を踏まえて必要な見直しを行っていくことが必要だと考えています。</p> <p>○ 現在、お示ししている県立高等学校再編振興計画のたたき台では、人口減少が続く本県の事情を踏まえ、本県独自の考え方として、次の2つに分けて考えております。</p> <p>一点目は、「中山間地域について」</p> <p>過疎化が著しく近隣に高等学校がない地域では、通学等にかかる負担を考慮して、地域で学ぶ環境を保障することを優先して、1学年1学級の規模でも学校を維持することとしています。</p> <p>二点目は、「高知市及びその周辺部地域の中央部について」</p> <p>一定の生徒数の確保が見込まれることから、将来においても6学級規模の学校を維持することで、より良い教育環境を維持していくために、統合を行うことが必要と考えております。</p> <p>また、こうした学校を維持することは、中山間地域の方々にとっても、より規模の大きな学校に進学する選択肢を残すことにつながります。</p>
96	<p>・ 専門高と普通高の統合は考えられないと発言、その根拠はいかにあるのか。</p>	<p>○ 普通科と専門科とでは専門科目や実習など学校の特色が大きく異なることから、基本的には同一系列の学校どうしの統合が望ましいと考えています。</p> <p>○ たたき台でお示した、須崎高校と須崎工業高校については、地域での生徒数の減少への対策や、震災に強い教育環境づくりのために統合案をお示したものです。</p>
97	<p>・ 実際に静岡では工業系・商業系との普通高の統合があるはず。</p>	<p>○ 普通科と工業科の統合上の課題については、統合前から両校の学校関係者が協議できる場をもち、調整を重ねることで、円滑な学校運営が行われ、よりよい教育環境が提供できるよう対応していきます。</p>

高知南中高保護者からのご意見（平成 26 年 5 月 17 日）への回答

98	<ul style="list-style-type: none"> 今の時代に専門大学（理系）進学を含めて検討すべき必要性があるのではないのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 理系に関する進路指導は、高大連携やスーパーサイエンスハイスクールなどの取組を通して行ってきました。その結果として、理工系の学部への進学を希望する生徒は増加しています。 また、大学のオープンキャンパスへの参加を支援したり、生徒の学力調査結果に基づいた指導方法の改善に取り組むなど、生徒の大学進学への希望を支援する取組はこれまでも行ってきました。 これらの取組は、今後も充実させていきたいと考えています。
99	<ul style="list-style-type: none"> 追手前高、北高を無くすのは違うと発言するが、具体的にどのような点で違うのか。相対的・客観的にみれば同じ高等学校である。もし、特色があるとして必要性があるなら、南中高も同様に特色があり必要性のある学校といえる。 	<ul style="list-style-type: none"> 高等学校教育の充実という観点から、進学拠点校は、多くの大学進学希望者が存在し、また、学び直しのニーズも年々増大しています。 進学拠点校同士で統合したり、学び直しの学校を他校と統合すれば、子どもたちのニーズに応える進学先が確保できなくなります。 各学校では、特色ある学校づくりを進めていただいておりますが、今回は、高知南高校と高知西高校を統合することで、今後、グローバル教育を進めていくうえで、大きな役割を担っていただくことが適切であると考えたものです。
100	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育。国際理解教育を生かす必要があると言っているが、であれば南中高は必要であると思う。バージョンアップを検討するのであれば西への新たな取り組みで検討すればいかなるものか。子ども達の選択肢を増やす必要があるのではないのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 5月17日の教育委員協議会でご説明しましたとおり、高知市とその周辺地域の中央部においても学校の統合が必要です。そのうえで、よりよい教育環境を提供していくという視点からグローバル人材を育成に取り組む学校を置くことを考えました。 社会や経済の急速なグローバル化に伴って、幅広い教養や課題解決能力などを備え、国際社会で広く活躍できる人材の育成が、これからの地域振興や産業振興を実現していく上でも大きな課題となってきました。 こうしたグローバル人材には、高度な語学運用能力とともに、論理的思考力や課題解決能力、コミュニケーション能力などが備わっていることが必要です。 これらの能力を備えた人材を育成していくためには、国際理解教育を教育活動の柱の一つに位置付け、中高一貫教育に取り組んでこられた高知南中高校と、英語科を中心に語学教育に力を注いでこられた高知西高校を統合することで、これまでの両校の取組を継承・発展させ、相乗効果を生み出すことが、ベストな選択であると判断をいたしました。 なぜならば、高度な語学運用能力やコミュニケーション能力を育成していくためには、これまで、高知西高校が取り組んできた国際的なコミュニケーション能力の育成を中心とする英語教育を活かしていくことが必要になります。 また、国際社会で活躍できる幅広い教養や課題解決能力等を育成していくために、高知南中高校が取り組んできたアメリカやアジアの国々との交流等による国際理解教育の成果を活かすことができます。 さらに、国際バカロレアの導入も見据えた、先導的なグローバル教育を実施していくために、中高6年間の一

高知南中高保護者からのご意見（平成 26 年 5 月 17 日）への回答

		<p>貫した教育プログラムを導入し、より効果的な教育を実施することとしていますので、これまで生徒や保護者の皆様などに支えられながら培ってきた高知南中高校の中高一貫教育のノウハウを、是非、引き継がせていただき、さらに発展させていくことが必要だと考えています。</p> <p>両校の生徒や関係者の皆様方に、こうした統合案をお示しすることは、大変心苦しく思っていますが、高知南中高校と高知西高校を統合することで、本県のグローバル教育をリードする充実した教育環境を整備していきたいと考えていますので、なにとぞ、ご理解をお願いいたします。</p>
101	<ul style="list-style-type: none"> 南海トラフ地震を全面に出すと言った委員の発言から、再編計画と地震対策はそれぞれで別けて十分な対策や方針を整備した上で総合的に検討する必要がある。同時進行で検討すると焦点がぼけてしまい方向性を見失う恐れがあるがいかかなものか。 	<ul style="list-style-type: none"> 再編振興計画は幅広い観点から検討することが必要ですので、生徒数の減少やグローバル人材の育成などの教育課題に加えて、震災に強い教育環境の整備についても検討しました。
102	<ul style="list-style-type: none"> 長期浸水による学校問題をこの場であげているが、南中高だけの問題でなく市内浸水高での問題で、この点を取り上げて南中高の再編要素にするのは疑問（愚問）ではないだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> すべての学校で震災から命を守るための防災教育や避難訓練に取り組んでいます。 高知南中高校は、津波避難場所として指定されているように、一時的に生徒の皆様を守ることに関していえば、十分に機能すると考えています。
103	<ul style="list-style-type: none"> あらかじめ浸水が予測するのであれば、校舎のかさ上げ、2階部以上からの学校施設計画など、1月に出された国家対策を改めて検討要素に盛り込んだ再編計画の必要性があるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> しかし、高知南中高校周辺は、津波によって長期浸水が予想されている地域であるとともに、高知港に近接し、周辺に工場もあることから、木材や船舶などの漂流物被害や、津波火災などのリスクが他の高校よりも高いことが想定されますので、長期浸水とこうした被害が重なることになれば、早期の学校再開は困難になります。 また、中学生を含めた約1,000人の生徒にとって、長期浸水やその他のリスクにより、一次避難をしている期間が長引けば、精神的、体力的な負担も、大きいと考えられます。 報道されている国の対策の方向性は承知していますが、高知南中高校については、生徒数が減少する中で、高知市内で単独で移転することは現実的ではなく、想定される大きなリスクを軽減することを視点の一つとして総合的に検討して、たたき台を示しました。 たたき台においても、高知南中高校をはじめとして、津波による大きな被害が想定される学校については、「被災後の早期の学校再開のために、学校の特性や地域の実態を踏まえながら、適地への移転や統合の可能性も含め、対応を検討する」こととしています。
104	<ul style="list-style-type: none"> 全国で初めての実施計画を目指してもよいのではないか。今の時点で方向転換した検討をして、改めて時間をかけた丁寧な再編計画の必要を各委員が検討しなければならないのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒数の減少は10年、20年先も続くものであり、先延ばしすれば、それだけ将来の子どもたちに、より良い教育環境を保証できなくなります。 たたき台はこうした点も含め、本県の特性等を踏まえた検討の結果としてお示したものです。
105	<ul style="list-style-type: none"> 高台移転計画または高層階への画工施設計画など、再検討の必要性があるのではないか。補助金もある緒ではないか。 	<p>【102と同じ】</p> <ul style="list-style-type: none"> すべての学校で震災から命を守るための防災教育や避難訓練に取り組んでいます。

		<p>○ 高知南中高は、津波避難場所として指定されているように、一時的に生徒の皆様の命を守るということに関していえば、十分に機能すると考えています。</p> <p>○ しかし、高知南中高周辺は、津波によって長期浸水が予想されている地域であるとともに、高知港に近接し、周辺に工場もあることから、木材や船舶などの漂流物被害や、津波火災などのリスクが他の高校よりも高いことが想定されますので、長期浸水とこうした被害が重なることになれば、早期の学校再開は困難になります。</p> <p>また、中学生を含めた約 1,000 人の生徒にとって、長期浸水やその他のリスクにより、一次避難をしている期間が長引けば、精神的、体力的な負担も、大きいと考えられます。</p> <p>○ 報道されている国の対策の方向性は承知していますが、高知南中高については、生徒数が減少する中で、高知市内で単独で移転することは現実的ではなく、想定される大きなリスクを軽減することを視点の一つとして総合的に検討して、たたき台を示しました。</p> <p>○ たたき台においても、高知南中高をはじめとして、津波による大きな被害が想定される学校については、「被災後の早期の学校再開のために、学校の特性や地域の実態を踏まえながら、適地への移転や統合の可能性も含め、対応を検討する」こととしています。</p>
106	<p>・ 特殊な学校は残すという消去法の発言があるが、そうであれば南中高は国際科がありグローバル教育、キャリア教育の点でも特殊な学校のひとつである。</p>	<p>【99 と同じ】</p> <p>○ 高等学校教育の充実という観点から、進学拠点校は、多くの大学進学希望者が存在し、また、学び直しのニーズも年々増大しています。</p> <p>進学拠点校同士を統合したり、学び直しの学校を他校と統合すれば、子どもたちのニーズに応える進学先が確保できなくなります。</p> <p>各学校は、特色ある学校づくりを進めていただいておりますが、今回は、高知南高校と高知西高校を統合することで、今後、グローバル教育を進めていくうえで、大きな役割を担っていただくことが適切であると考えたものです。</p>
107	<p>・ 委員よりフローチャートで示せばとあるが、この場での検討の仕方はフローチャート方式ではない。フローチャート方式は、ある一定の方向性を結論付けるための方法であり、この場では、県下の全高校を対象としたマトリックス形式による分析方法が妥当である。</p>	<p>○ フローチャートは論理的に考えて分析することができる手法ですので、このような検討には適切であると考えます。</p> <p>○ 数多くの学校の名前をあげて公開で検討を行うことは、いたずらに学校間の対立と混乱を生むことから、最終的に、最も教育環境を充実させることができる組み合わせとして、たたき台をお示ししました。</p>
108	<p>・ 震災後の再開で東北の事例をあげ、遠くの学校に無理やりスペースを確保して再開するのは無理があると発言しているが、そうであれば追手前、北、小津なども同様な事例に落ちやすく、再開、復興を考慮した南中高の検討案の理由づけに結びついていない。すべてが同レベルではないか、そのため南中高の必要性や国の方針（地震対策）による検討を改めて検討する必要があるのではないか。</p>	<p>○ まずは命を守る取組として、防災教育や避難訓練を実施しています。しかし、高知港に近接し、周辺に工場もあることから、木材や船舶などの漂流物被害や、津波火災などのリスクが他の高校よりも大きいことが想定されます。また、約 1,000 人の生徒をあずかる学校として、そのリスクを低減する必要があると考えています。</p> <p>○ 発生頻度の高い地震の想定では、高知南中高の津波浸水浸が 2 m である一方で、高知追手前高校が 30 cm、高知小津高校と高知北高校は浸水が見込まれていませ</p>

高知南中高保護者からのご意見（平成 26 年 5 月 17 日）への回答

109	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所の問題も発言しているが、この潮江地域には保育園以外にも 3 小学校、1 中学校があり多くの子どもたちが生活している。地震対策で危険ということのみで南中高を対象とした南海トラフ対策はあまりにも未熟ではないか。県として市町村をこえた総合的な検討が必要であり、また教育委員会としても未来ある子どもたちの将来性、養育方針を検討する必要がある。そのような、検討が委員からも導き出すことが出来ない。 	<p>ん。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ また、最大クラスの地震を想定した場合でも津波浸水深は、南高校が 3 m である一方で、高知追手前高校は 2 m 未満、高知小津高校は 0.3m 未満で、高知北高校では浸水の予測はありません。これらの学校は海沿いの立地ではなく、高知南中高校とは学校再開の状況は異なると思います。 ○ なお、保育所についても、高等学校とは状況は大きく違っていますが、津波による被害が想定される地域については、避難対策等を徹底するとともに、高台移転等を進めていただくよう支援しております。
110	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地震、津波に危険な高校として（12/5資料）宿毛、清水、海洋、安芸などがあるが、津波到達時間や高さを検討すると南中高より危険な高校が多い。津波を引き合いに再編検討を口にするのは非常に偏った見解や周囲への誤解を招く。まずは危険な高校を優先、（閉校、高台移転など）し南はまず耐震対応の検討ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ すべての学校で震災から命を守るための防災教育や避難訓練に取り組んでいます。 ○ 高知南中高校については、生徒数が減少する中で、高知市内で単独で移転することは現実的ではなく、想定される大きなリスクを軽減することを視点の一つとして総合的に検討して、たたき台を示しました。 ○ たたき台においても、高知南中高校をはじめとして、津波による大きな被害が想定される学校については、「被災後の早期の学校再開のために、学校の特性や地域の実態を踏まえながら、適地への移転や統合の可能性も含め、対応を検討する」こととしています。
111	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在のキャリア教育はグローバル人材の育成とし、国際バカロレアは先頭を走っていると発言しているが、それであれば南と西の立ち位置が明確にでき分けることが出来るのではないか。西への一本化の集中する必要があるのか。そうであれば、県下での選択肢は相変わらずひとつであり、子どもたちの豊かな選択肢へ結びつかない。 	<p>【100 と同じ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 5 月 17 日の教育委員協議会でご説明しましたとおり、高知市とその周辺地域の中央部においても学校の統合が必要です。そのうえで、よりよい教育環境を提供していくという視点からグローバル人材を育成に取り組む学校を置くことを考えました。 ○ 社会や経済の急速なグローバル化に伴って、幅広い教養や課題解決能力などを備え、国際社会で広く活躍できる人材の育成が、これからの地域振興や産業振興を実現していく上でも大きな課題となってきました。
112	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先頭を走る学校で教員が実践し、他の校へフィールドバックすることのできる学校と発言があるが、それであれば南の存在感は高いのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ こうしたグローバル人材には、高度な語学運用能力とともに、論理的思考力や課題解決能力、コミュニケーション能力などが備わっていることが必要です。 ○ これらの能力を備えた人材を育成していくためには、国際理解教育を教育活動の柱の一つに位置付け、中高一貫教育に取り組んでこられた高知南中高校と、英語科を中心に語学教育に力を注いでこられた高知西高校を統合することで、これまでの両校の取組を継承・発展させ、相乗効果を生み出すことが、ベストな選択であると判断をいたしました。 ○ なぜならば、高度な語学運用能力やコミュニケーション能力を育成していくためには、これまで、高知西高校が取り組んできた国際的なコミュニケーション能力の育成を中心とする英語教育を活かしていくことが必要になります。 ○ また、国際社会で活躍できる幅広い教養や課題解決能力等を育成していくために、高知南中高校が取り組んできたアメリカやアジアの国々との交流等による国際理解教育の成果を活かすことができます。

高知南中高保護者からのご意見（平成 26 年 5 月 17 日）への回答

		<p>さらに、国際バカロレアの導入も見据えた、先導的なグローバル教育を実施していくために、中高6年間の一貫した教育プログラムを導入し、より効果的な教育を実施することとしていますので、これまで生徒や保護者の皆様などに支えられながら培ってきた高知南中高校の中高一貫教育のノウハウを、是非、引き継がせていただき、さらに発展させていくことが必要だと考えています。</p> <p>両校の生徒や関係者の皆様方に、こうした統合案をお示しすることは、大変心苦しく思っていますが、高知南中高校と高知西高校を統合することで、本県のグローバル教育をリードする充実した教育環境を整備していきたいと考えていますので、なにとぞ、ご理解をお願いいたします。</p>
113	<ul style="list-style-type: none"> 何もない（国際科や英語科）学校へのフィールドバックは現実味があるのか。西だけでの存在感は現実味がなくフィールドバックにならない。 	<p>○ グローバル科では、単に英語運用能力だけを身に付けた生徒ではなく、論理的思考力や課題発見・解決能力・コミュニケーション能力などを併せて身に付けた生徒を育成していきます。このことは、キャリア教育が目指す生徒像を実現していくうえでも重要であり、他の学校でも活用することが可能であると考えています。</p>
114	<ul style="list-style-type: none"> 西に対してバージョンアップとした発言があるが、それであればバージョンダウンした対応も必要ではないか。これは、子どもたちの能力や将来的な展望、変化に対応できる選択肢が必要ではないか。 	<p>○ 生徒のニーズは多様化しており、それぞれの方向での取組にバージョンアップしていくことが大切だと考えています。社会や経済の急速なグローバル化に伴って、幅広い教養や課題解決能力などを備え、国際社会で広く活躍できる人材の育成が、これからの地域振興や産業振興を実現していく上でも大きな課題となってきています。グローバル教育科での取組を全ての学校に広げていくことで、高等学校全体の取組を引き上げてまいります。</p>
115	<ul style="list-style-type: none"> 国際バカロレアの認定をみると多くがインターナショナルスクールと発言があるが、急な西への対応で国際バカロレアの計画が進行するのか。南はすでに中学併設で12年間の実績があるのになぜなのか。 	<p>○ グローバル人材には、高度な語学運用能力とともに、論理的思考力や課題解決能力、コミュニケーション能力などが備わっていることが必要です。</p> <p>これらの能力を備えた人材を育成していくためには、国際理解教育を教育活動の柱の一つに位置付け、中高一貫教育に取り組んでこられた高知南中高校と、英語科を中心に語学教育に力を注いでこられた高知西高校を統合することで、これまでの両校の取組を継承・発展させ、相乗効果を生み出すことが、ベストな選択であると判断をいたしました。</p>
116	<ul style="list-style-type: none"> 偏差値やレベルで線引きしているのか。 	<p>○ 質問の趣旨が、学校の偏差値やレベルで線引きをして、再編を検討しているのかということでしたら、決して偏差値等で線引きをして、たたき台を作成したものではありません。県全体の将来の子ども達によりよい教育環境を守っていくことを考え、作成したものです。</p>
117	<ul style="list-style-type: none"> 全国で公立は東京都立のみである。なにか急ぐ必要があるのか。 	<p>○ 社会や経済の急速なグローバル化に伴って、幅広い教養や課題解決能力などを備え、国際社会で広く活躍できる人材の育成が、これからの地域振興や産業振興を実現していく上でも大きな課題となってきています。</p> <p>○ また、国はグローバル人材の育成を視野に大学入試制度の改革等の検討も進めるとともに、5年間で全国に200校という目標を掲げており、全国的に国際バカロレ</p>

高知南中高保護者からのご意見（平成 26 年 5 月 17 日）への回答

		<p>ア申請を検討している都道府県や学校も増加してきています。</p> <p>○ こうした中で、本県においても、国際バカロレアを導入したグローバル教育の牽引役の学校をつくり、県内の高校全体のレベルアップを図っていくことが必要だと考えています。</p>
118	<p>・ 高知県の中学の学力レベルを見ると、全国的にも低い状況で単に西に国際バカロレアや外国語授業など、本当に現実味があるのか。まずは、県全体での学力の底上げが必要であり、実践を計画するためには南中高が実験的な学校でいいのはいいか。</p>	<p>○ 高知県の子どもたちは、全国の子どもたちと比較して、その能力は劣るものではないと考えていますし、全国学力テストをみても、着実に学力は向上してきています。今後とも学校と教育委員会が連携して、一層の学力向上に取り組んでいきたいと考えています。</p> <p>○ また、高知南中高で培ったキャリア教育や国際理解教育、中高一貫教育のノウハウと、高知西高校で取り組んできた語学教育を統合することで、これまでの両校の取組を継承・発展させ、相乗効果を生み出すことが、ベストな選択であると判断いたしました。国際バカロレアも踏まえたグローバル教育は可能であると考えています。</p>
119	<p>・ 西へのバカロレアの構想でこの5年が大事と発言しているが、先頭に立つような学校を5年で実現できるのか。南を存続し連携したうえでそのアップとしての計画が高知県の教育には必要ではないだろうか。</p>	<p>○ 国際バカロレアを導入するためには、本県の高等学校に即したカリキュラムを検討したり、教員を育成するために、一定の期間は必要です。</p> <p>グローバル人材には、高度な語学運用能力とともに、論理的思考力や課題解決能力、コミュニケーション能力などが備わっていることが必要です。</p> <p>これらの能力を備えた人材を育成していくためには、国際理解教育を教育活動の柱の一つに位置付け、中高一貫教育に取り組んでこられた高知南中高校と、英語科を中心に語学教育に力を注いでこられた高知西高校を統合することで、これまでの両校の取組を継承・発展させ、相乗効果を生み出すことが、ベストな選択であると判断をいたしました。</p> <p>国際バカロレアの導入も見据えた、先導的なグローバル教育を実施していくために、中高6年間の一貫した教育プログラムを導入し、より効果的な教育を実施することとしていますので、これまで生徒や保護者の皆様などに支えられながら培ってきた高知南中高校の中高一貫教育のノウハウを、是非、引き継ぎさせていただき、さらに発展させていくことが必要だと考えています。</p>
120	<p>・ 委員から工業出身者は英語をやっていないとの発言がありこのような教育が必要との発言があるが、それであれば西だけでの特科だけでいいのだろうか。また、その話題で南の再編計画と西の英語科を交えた議論は焦点があっておらずこの場での議論に不適格である。</p>	<p>○ 英語教育につきましては、本年度、小中高を通じた英語教育の充実に向けて「高知県の英語教育推進のためのガイドライン」を作成し、地域拠点校での先導的な教育の実施やコア・ティーチャーの育成、効果的なカリキュラムの導入等の取組を全県的に進めていくこととしています。</p> <p>○ 統合した学校では、英語の活用能力の育成に向けた先導的な取組を進めていきます。その成果を県内のすべての高校に普及することで、使える英語力を生徒に身に付けてほしいと考えています。</p>
121	<p>・ グローバル30という国際化を目指すとの発言があるが、それであれば南の存在も高知県全体を考慮して必要ではないだろうか。</p>	<p>○ グローバル30は、国が大学の国際化を目指すために指定事業を実施している大学のことで、グローバル教育を推進するに当たっては、これらの大学と連携を進めて行くことが重要であるという趣旨の発言です。</p>

高知南中高保護者からのご意見（平成 26 年 5 月 17 日）への回答

122	<ul style="list-style-type: none"> また、それであれば私立の土佐、学芸、公立の追手前、小津、西の順における学力レベルを一極集中にしているものか。北、丸にみられる特殊高の設定（こどもの学力に合わせた学校）、幅広い選択肢の必要性があるのではないか。学力レベルの二分化または切り離しにならないだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒のニーズに応じた進路に対応できるよう、バランスのとれた学校の配置が重要であると考えています。 ○ このたたき台はそうした考え方に立って作成しています。
123	<ul style="list-style-type: none"> 途中、流れは理解できるかで、各委員全員が了解としたが、委員の意見もなく委員長と教育長の発言だけで了解してよいものか。委員としての役目を放棄していないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 当日の会議では、委員長と教育長の発言が多くなりましたが、これまでの長期に渡る検討も踏まえて教育委員全員が協議し、判断したものです。
124	<ul style="list-style-type: none"> 南の生徒が安心して学んでいくための取り組みについて、生徒たちの心情を考えすぐに取り掛からなければならないとの発言があるが、いままでそのような行動が見られない。なお、具体的に取組んだ経緯があれば、その時期と内容、どの程度の人数など具体的な経過報告をだしてほしい。 	<p>【65 と同じ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ これまでの生徒への対応としては、 <ul style="list-style-type: none"> ・校長から生徒に事情説明し、生徒の今の気持ちについてのアンケート調査を実施 ・スクールカウンセラーを週 1 回に加えて、1 月 30 日～2 月 25 日の期間に緊急的に配置し、生徒たちの心のケアに努めてきました。 また、今後、生徒の皆さんに安心して学校生活を送っていただけるよう、例えば、養護教諭の複数配置やスクールカウンセラーの常駐などの心のケア対策に学校と教育委員会が一丸となって、取り組んでまいります。
125	<ul style="list-style-type: none"> アンケートの実施の発言があるが、どのような内容でどのような分析が出たのか報告してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 心の状態を把握し、必要に応じた適切なケアにつなげていくために、生徒の皆さんには、そのときの気持ちを書いてもらいました。そのアンケートの様式は、スーパーバイザーの助言を受けて、選択肢で統合のこののみを聞き出すのではなく、日頃からの悩みも含めた素直な今の気持ちを引き出すために、自由記述としました。生徒の回答としては、「母校がなくなることは寂しい。」や「いい学校なので、とにかく残してほしい。」という意見の他に、「状況から考えるとしかたがない。」という意見がありました。 なお、対応の必要がある可能性がある生徒にはスクールカウンセラー等が個々に対応しています。
126	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちへの取り組みについての検討内容が非常に少なく短い、また事務局、委員長、教育長の発言で委員からの発言がなく、各委員はこのことに対して何ら疑問もないのでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各教育委員は、子供へのケアが重要であるという認識のもと、教育委員協議会において、今後の対策を検討しています。また、高知南中高校の教育内容の充実を図るための対策も検討しているところです。
127	<ul style="list-style-type: none"> また、委員長より今日はここで終わりにしたいとの発言があるが、現教育者また保育における児童教育者にとってそのような内容で終了していいものだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育委員協議会でのたたき台の議論は、更に続けていくという基本に立ち、今回の内容については、ここまでとし、次回に継続しましょうという趣旨です。
128	<ul style="list-style-type: none"> 参考資料 2 にある学級規模の違いと部活状況からは、学級数による影響はないように見とれるがいかがなものか。学校の校風による違いが大きいのでは、またこの資料から学級数の減少がよくないとはいえない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 5 月 17 日の協議会で説明させていただきましたように、1 学年 6 学級以上の規模の学校では習熟度別授業の実施、部活動をはじめとする切磋琢磨する教育環境の整備などの充実した面など、より活気あふれる学校づくりが可能となってまいります。
追1	<ul style="list-style-type: none"> 先程、命について1,000人規模の中で中学生が避難できないとの話があった。この地区には小学校、中学校、幼稚園も保育園もある。進取会の方が言われたように2,633名の避難ビル指定となっているのでそれを物差しとした見方での再編計画の議 	<ul style="list-style-type: none"> ○ すべての学校で震災から命を守るための防災教育や避難訓練に取り組んでいます。 ○ しかし、高知南中高校周辺は、津波によって長期浸水が予想されている地域であるとともに、高知港に近接し、周辺に工場もあることから、木材や船舶などの漂流

高知南中高保護者からのご意見（平成 26 年 5 月 17 日）への回答

	<p>論は少し違うのではないかと思います。中学生だから何何だからというのは少し違うのではないかと。</p>	<p>物被害や、津波火災などのリスクが他の高校よりも高いことが想定されますので、長期浸水とこうした被害が重なることになれば、早期の学校再開は困難になります。</p> <p>また、中学生を含めた約 1,000 人の生徒にとって、長期浸水やその他のリスクにより、一次避難をしている期間が長引けば、精神的、体力的な負担も、大きいと考えられます。</p> <p>○ 高知南中高校については、生徒数が減少する中で、高知市内で単独で移転することは現実的ではなく、想定される大きなリスクを軽減することを視点の一つとして総合的に検討して、たたき台を示しました。</p>
<p>追2</p>	<p>・ 須崎高校と須崎工業高校が 3 学級、3 学級ということであったが、3 学級と 3 学級で 6 学級という数字を目指すのであると思うが、本日の資料によると 6 学級と 6 学級を合わせて 6 学級の普通科にしているのは青森県だけである。その他の県は 4 学級とか 2 学級という数字で全国が目指している 4～8 学級の規模の学校を目指している。東北の方や色々なことを知っているが、郡部であったり都市であったり土地柄がある。そうした中で 4+4 で例えば 6 にしたり 7 にしたりである。他のところは 3+3 で 6 にしている。統合であれば、高知南と高知西であれば 6 学級+6 学級で 12 学級という統合案でなくてはならない。12 学級が少し多いのであれば、少し減らして 10 学級位ではないか。</p>	<p>○ 10 年後に旧高知学区で生徒数がおよそ 420 人減少（うち高知市は 300 人減）することが見込まれます。</p> <p>こうした状況に対応していくために、統合後の学校は、7 学級（280 人）を定員にすることが適当であると考えています。（統合後の学校の定員を 10 学級にすると、現状と比べて 3 学級分即ち 120 人の定員減にしかありません。）</p> <p>併せて、産業系専門学科についても学科改編等により定員削減を行ってまいります。</p>
<p>追3</p>	<p>・ 全国でもこの様な統合は稀である。資料はかなり郡部の僻地のところも入っているのではないかと思います。立地条件を考えて十分に考えて頂きたいと思う。回答にはそのようなものがなかった。</p>	<p>○ 高知南中高校と高知西高校の統合案は、高知市とその周辺地域の中央部での定員を適切に管理するために実施するものであり、資料は中央部についてお示したものです。</p> <p>○ 他県においても県庁所在地をはじめ都市部の学校の統合事例は少なくありません。</p>
<p>追4</p>	<p>・ バカロレアの話について、以前のこの教育委員会の中でバカロレアを特化した学校でということとで教育長、委員方々はそのような方向性を目指すと、高知唯一のものを目指すと saying。また、資料にも載っている。今回の資料には一切そのようなものはない。グローバル化という形で考えている。いつこうゆう時点でグローバル化になったのかということである。最初はハイレベル、ハイスペックを求めた学校が必要だということのためにバカロレア計画をする。高知南の国際科と高知西の英語科を一緒にして振興をしていくということで検討したはずだ。それがどのような段階で変わったのか、グローバルを目指すのであれば、現在の高知南でもできるので高知南高校にグローバル科をつくりハイレベルなスーパー・グローバル・ハイスクールにすればよい。</p>	<p>○ 高知南中高校と高知西高校を統合し、国際科と英語科を新たにグローバル教育科（仮称）とし、その中に国際バカロレアコースを置くという案に変更はありません。今回の資料は「なぜ高知市内の県立学校の統合が必要なのか」、「なぜ高知南中高校なのか」について詳しくお示したものです。</p> <p>○ 社会や経済の急速なグローバル化に伴って、幅広い教養や課題解決能力などを備え、国際社会で広く活躍できる人材の育成が、これからの地域振興や産業振興を実現していく上でも大きな課題となってきています。</p> <p>こうしたグローバル人材には、高度な語学運用能力とともに、論理的思考力や課題解決能力、コミュニケーション能力などが備わっていることが必要です。</p> <p>これらの能力を備えた人材を育成していくためには、国際理解教育を教育活動の柱の一つに位置付け、中高一貫教育に取り組んでこられた高知南中高校と、英語科を中心に語学教育に力を注いでこられた高知西高校を統合することで、これまでの両校の取組を継承・発展させ、相乗効果を生み出すことが、ベストな選択であると判断</p>

高知南中高保護者からのご意見（平成 26 年 5 月 17 日）への回答

		<p>をいたしました。</p> <p>なぜならば、高度な語学運用能力やコミュニケーション能力を育成していくためには、これまで、高知西高校が取り組んできた国際的なコミュニケーション能力の育成を中心とする英語教育を活かしていくことが必要になります。</p> <p>また、国際社会で活躍できる幅広い教養や課題解決能力等を育成していくために、高知南中高校が取り組んできたアメリカやアジアの国々との交流等による国際理解教育の成果を活かすことができます。</p> <p>さらに、国際バカロレアの導入も見据えた、先導的なグローバル教育を実施していくために、中高6年間の一貫した教育プログラムを導入し、より効果的な教育を実施することとしていますので、これまで生徒や保護者の皆様などに支えられながら培ってきた高知南中高校の中高一貫教育のノウハウを、是非、引き継がせていただき、さらに発展させていくことが必要だと考えています。</p> <p>両校の生徒や関係者の皆様方に、こうした統合案をお示しすることは、大変心苦しく思っていますが、高知南中高校と高知西高校を統合することで、本県のグローバル教育をリードする充実した教育環境を整備していきたいと考えていますので、なにとぞ、ご理解をお願いいたします。</p>
<p>追5</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各教育委員の出身高校は公立高校であるか私立高校であるのか教えてもらいたい。また、子どもさんがいらっしゃったら公立高校を出たのか私立高校であったのか構わなければ教えてもらいたい。保護者会、校友会、進取会、国際教育振興会の思っている気持ちを理解して欲しいということである。 	<p>○ 教育委員長をはじめとする教育委員は、自身や家族の出身校が公立高校なのか私立高校なのかに関わらず、高知県教育委員会が所管する学校教育について、公的な立場で公正に教育委員の職務に就いており、県立高等学校再編振興計画の策定にあたっています。</p>
<p>追6</p>	<ul style="list-style-type: none"> 委員長は今高知学園の学長さんであるが、今回教育長が変わって組織が急に変わって、これが第2回目の検討会であり、いま現在学園の定員が1,000名減増で高校生は600名程度であると思うが、私立の学長が委員長という立場でこの高知の公立の高等学校の再編計画に当たることには我々は疑問に思う。先程を校友会の方から人材について適正なのかとありましたがそうとったことを踏まえて検討して欲しいと思う。これについては、後日で構わないが検討して欲しい。平等な立場、公的な立場で高知県というものを見て欲しいと考える。 	